

編集後記

◆夏らしい夏も来ず雨ばかり降っている。これでは農作物に大きな被害が出るだろう。奥尻島の津波や九州の土砂崩れなど、多くの人命を奪う災害が続いている。家族を亡くされた方々にお悔やみ申し上げたい。関東大震災から70年目の9月1日がまもなくやって来る。自然災害に立ち向かう我々の知恵はどれだけ進歩したろうか。

◆今月号は通常号として企画したが、都合により、先月号に予定した稿も含まれている。針谷宥先生には特に本号のためにご執筆頂いた。ご多忙にもかかわらず、予定を早めてご寄稿頂いた事に厚くお礼申し上げます。またこの件でご助力下さった当所前首席研究官の大嶋和雄氏にもお礼申し上げます。日本の地球科学研究史初期の人物伝的な稿をいろいろな方をお願いしてご執筆頂き、今後も時折掲載していく予定である。

◆今年に入って発行の遅れが目立つようになってきた。数多くの購読者には大変申し訳ない事である。担当編者の怠慢も主たる原因のひとつだが、原稿の遅れや不備も無視できない。原稿の形式に関しては、本号末尾に掲載した手引を参照されたい。

◆口絵の著者としてしばしば私の名前が出て来るので、世界のあちこちを旅行して歩いているかのような誤解を一部の人に与えているかも知れない。しかし実際には、私はアフリカにもスペインにもアイスランドにも行ったことはない。これらの口絵は、原稿が無い時のために準備しておいたもので、その作成手順は以下のようである。

◆当所に来た各国の研究者からスライドを見せてもらい、その内容を聞く。主な写真を選び、簡単な解説を付けてもらう。これを基に割付を考えながら原稿を作る。多くの場合、ただ訳したのでは日本人向けの原稿にはならないので、全体のイメージをつかむため関連論文を参照しつつ導入部の解説文を書き、同時に写真を選び直す。もちろん写真の提供者とは何度かやり取りをする。本号の場合、3月末帰国直前に写真を借りたので、このやり取りはスペインとの間でファクスを通じて行われた。幸いご息子が招聘研究者として滞在しており、スペイン語に直された質問に父上から翌日返事が来るというぐあいので、ファクスの有難さを改めて感じさせられた。

◆こうした作業は、うまくいくと半日程度で終わるが、馴れない分野の場合2-3日はかかる。本号のように、連載を予定していたのに1回分に圧縮しなければならなくなる事もある。けっこう煩わしいのである。しかし、写真を見ながらその地その分野の専門家の話を聞くので、多少現地をのぞいたような気にはなれる。このように、いわば聞き書きで作成した原稿であるから、迫りに欠ける点もあろうし、何か不備があれば、責任の大半は私にあるという事をお断りしておかねばならない。

◆ところで、世はいま恐竜ブームだという。映画に絵本にキャラクター商品に、恐竜がはびこっているのだそう。だがこれをもって世の中が地質学に目を向けつつあるなどと早合点してはならない。日本型メダカ社会に乗じた商魂が見え隠れしている。

副委員長 佐藤興平 記

地質ニュース編集委員会

委員長：小玉喜三郎

副委員長：佐藤興平

幹事：宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員：今井登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・

花岡尚之・鈴木尉元・神谷雅晴・吉井守正

事務局：総務部業務課広報係（中島秀記・清水真寿美）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース

第468号 1993年8月号

定価 ¥ 770 千実費

1993年8月1日 発行

編集

発行人

発行所

工業技術院地質調査所  
林久雄  
株式会社実業公報社  
東京都千代田区九段北1の7の8  
〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京 1-32466

麹町局私書箱第21号

印刷

小宮山印刷工業株式会社

©1993 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の豊が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。